

# 創学舎コース

No.257

## 大学受験で

## 成功する人と失敗する人

生徒は、私を元ラグビー部とか元柔道部とか言うが、実は元華道部...ではなくて元野球部である。中学時代に、プロ野球選手の指導をマンツーマンで半年もつけたことが自慢である。サッカーから剣道、柔道までスポーツ番組は全て見てしまう。ジョギング中にグラウンドゴルフの仲間に入ってしまったりもする。やるのは余りうまくない。

英語の勉強	サッカー	野球
単語 熟語 英文法 構文	ランニング 体操 パス練習 ドリブル練習 etc	ランニング キャッチボール トス・バッティング 体操 etc
形式別 テーマ別の演習	紅白戦 ミニゲーム フォーメーション etc	紅白戦 フリーバッティング シートバッティング etc
過去問	情報収集 シュミレーション	情報収集 シュミレーション
模試	練習試合	練習試合
本番のテスト	本番の大会	本番の大会

さて、スポーツの話から入ったが、それは勉強との、いや勉強に限らず職業訓練を含めたいろいろな訓練に共通項があるからだ。上の図を見てみよう。

何かのスポーツ、いやスポーツに限らず、習い事をやった人なら、この図の意味するところは分かるはずだ。基礎練習ができないければ、の成果はあがらない。毎日続けなくてはならない。ある程度できるようになってもやめてはいけない。ところが、勉強になるとこれを怠る人が何と多いことか。ある日、思い出してやっても、続かなければすぐに力は落ちてしまう。単調だがとにかく大事な作業なのだ。その上で、と続く。ところが、勉強ではきつい。なかなか正解にたどり着けないからだ。特に、何でも丸おぼえでやってきて、加えて国語力の弱い人にとっては、は地獄である。はりきって取り組んでもすぐにメゲテしまう。大体の受験生は、が苦手なのに加えて、で挫折する。これでは、成功は永久にやっこない。

実は、受験生はみんな努力している、たとえ、親が何と言おうと多少の勉強はしている。しかし、うまくいっていない人のほうが多い。例えば、今日2時間しかやらなかったA君は、2時間ぐらいの勉強で志望校に受かるだけの能力はない(ほとんどの受験生がそつだが)。そして、時々、「このままではまずい。」「も

つとやらなければ!」と決意するのである。だが、4、5時間もやれるのは数日で、また2時間程度の勉強になってしまう。2時間といえ、せいぜい一教科しかやれないはずだ。弱い科目が気になって、そちらに集中すればまた他の科目が中断してしまう。これを、「科目の虫食い」という。そういうことを繰り返して一年が終わる。少なくとも2時間は年間はやったのに、どの科目も力はついていない。残念なことだ。当然、不合格!

ところで、「人生にムダなことはない。」という。私もそう思う。だから、失敗しても、それを経験として活かして再び頑張ればよいのだ。ただ、誰でも経験として活かして再スタートをされるかといえば、そうでもない。敗北感のみ残して、今までと同じようなペースでその後の人生を送る人も多いのだ。そういう人にとっては、2時間の勉強も「空しい努力」だったということになるだろう。

さて、高3生の志望校はほぼ全員確認済みだが、なかなかのところを目指している。目標を高く設定するのは非常に良いことで応援団の私たちも力の入れがいがある。ただ、残念なのは、勉強をなめている生徒が少なからずいること。人間関係でも、仕事でも、趣味でもなめているとろくなことはない。

一体、MARCH(明治・青山・立教・中央・法政)に合格するとは、どれぐらいのことか、部活にたとえれば、県大会ベスト8ぐらいの価値に相当するはず。早慶に合格するとはどの程度か。県大会ベスト4ぐらいか。東大を目指すなら決勝進出ぐらいはないといけない。



普通の運動能力の人が、部活でベスト8やベスト4を目指すなら、それこそ死に物狂いの練習をするだろう。勉強でも同じことなのだ。

しかも、勉強は、一科目ではない。三科目から、七科目までのやりくりをしないといけないのだ。そういう意味では運動以上の計画性と強い意志が必要といえるかもしれない。

一日一教科など論外。二科目でもきびしい。受験科目が3科目の人はそれを毎日やらないといけない。七科目ある人は、七科目同時スタートをしてはいけない。ある程度の力をつけるには集中してやる必要がある。セクターのみで利用する社会や理科は9月以降にまわすことが必要になる。その上で、英数を毎日、他の科目を一日おきに入れるなどの計画が望ましい。

再度いう。毎日2時間のきみは、「志望校に合格」にまっしぐらの道を歩いているのだ。部活がある人は時間の確保は苦しいだろうが、歯を食いしばって(でも睡眠時間は6時間キープして)平日3時間はとること。部活のな

人は毎日5時間以上やること。  
自分のその日の気分ではなく自分の願望を大事にして、動き出せ。一年はあつという間だよ。しかし使い方によってはきみの夢をかなえるのに十分な時間だ。

(小林)

## いじめの周辺

### (傷つきやすい心)

いじめはなくならない。こう書くと、心ある方、人間の善性を信じている方、何よりもいじめにあっている人(あつた人)から、猛反発をうけそうだが、恐らく太古の昔からあつたのだ。いじめに走る可能性は全員ではないが、何割かの人間の心の中には、必ず潜在的な「いじめ」という行動として発現するのである。

いじめは、時として取り返しのつかない悲劇を生む。鹿川くんとか大河内くんとか、ユースで大きく取り上げられた事件だけでも相当な数になる。大きな事件にならないまでも、心に傷を負ったまま、不意な人生を送ることになった人は数限りなくあるはずだ。実際、いじめをきっかけとして不登校になったり、ひきこもりになった教え子達も何人か

知っている。塾中での露骨ないじめであれば介入できるが、基本的には学校生活の中の出来事が大半なので、こちらとしては無力であつた。その生徒が卒業してしまつたあと、その友人や保護者から事情を聞くことになつたケースも少なくない。



ところで、いじめた側の人間はどうしているのだろうか。実は余り気にしていない。罪の意識などまずありえない。いいと、「ちょっと申し訳なかつたかな。でも、昔のことだし...」といった程度。ましてや、いじめられている人のことを遠巻きに眺めている人達は、完全に忘れているだろう。いじめた人も、見ていた人も、自分は被害者ではないからである。自分には自分の悩みがあるのだ。部活のこと、進学のこと、就職のこと、家族のこと。人間関係の調整だつて大変なのである。

「ちょっと待てよ。」といじめられる側は思うだろう。いじめた奴も、見ていた奴も大変だろうが、私はずっと前からもっと大変だつたんだ。今も、きみ達よりもっともっと大変なんだ。大体、自分は何もしていないではないか。絶対おかしい。絶対許せない。

その通りである。そのことだけを取り上げれば、いじめられる方が、一方的に損をするのである。何といつ不合理。何といつ不条理では、どうすればいいのか。(以下次号)

(小林)

## 受験勉強を

### 人生に活かす(2)

#### 次元の高い幸福感を得るチャンス

受験は今や一大年中行事としてすっかり定着し、子を持つ親にとって避けて通ることのできない共通の関門となりました。

しかし、一方、親子が一体となって取り組むことができる共通のテーマといえば、今の時代では「受験」が大きなものであるというの、また事実でしょう。

そうであれば、これにいかにも有効に対処するかが、極めて重要となることがわかります。

事実、受験も考え方、捉え方次第で、充実したものの、あるいはただ苦しいものにもなり、それに入試の結果はもとより、わが子の将来も左右することにもなるからです。

受験という、とかく苦しくて、つらくて悩みの多いもの、というマイナスのイメージが先行しがちで、また、実際にそう訴える人が多いことも確かです。

けれども、数が多いからといって、それが事実であるとは限りません。むしろ希少価値といって、肝心なことほど、数が少ないほうが正しく、優れているということが結構多いのではないのでしょうか。

その証拠に、苦しい、つらいと嘆いている人を尻目に、親子で受験を充実したものにしている人も結構います。

また、ある生徒は「これだけ努力することができたので可否はともかく、とても幸せです。」とノートチェックのときに言っていました。当然、それだけ努力するのだから合格しましたが、そのときは、その生徒の顔をまじまじと見つめてしまいました。

受験を今の時代の中で、キチンと位置づけ、正しい方法で継続した努力ができる人にとっては、次元の高い幸福感を身につけるチャンスかもしれません。また、一人でも多くこのチャンスをものにしてもらいたいものです。

(アガトス教育研究所)



受験生は読め! (合格のヒケツがここにある)

勉強法・精神面のケアなどについて、創学舎講師陣が書いたものです。

非売品です。希望者には無料で差し上げます。

**愛の壁** お父さんお母さんあなたの愛は子供に届いていますか (著者 小林 憲右)

創学舎ニユースの編集責任者 小林が二十一年間書き続けてきた記事の中から抜粋・加筆したものです。

卒業や転校等で創学舎を離れ方にも、ご希望があれば創学舎ニユースを無料でお送り致します。在籍していた教室までご連絡下さい。